



発行：社会福祉法人いわき福音協会  
〒0246-23-1903 ホームページhttp://i-fukuin.com  
住所：福島県いわき市平上平窪字羽黒40-44

第42号  
2023.4.1



昨年、新型コロナウイルス感染症対応に翻弄された1年でしたが、事業継続計画に基づいて職員が協力し合うことにより、利用者の生活を守ることができました。国は、感染症法上の位置付けについて、5月8日から5類感染症に位置付けることとしました。3年前には、感染症対応の「新しい生活様式」が推奨され、福祉・介護業界でも利用者・職員とも新しい生活様式に移行することに頭を悩ませましたが、これからは、元の生活に戻す努力が求められています。短期間でコロナ前の生活に戻るのか悩ましい

ところ。窮屈な生活を強いられ、利用者のためには、早く元の生活に戻してあげたいが、感染症は完全になくなるわけではありません。しばらくは、感染状況を見ながら徐々に戻すことになるでしょう。新たな支援の仕方が必要になるのかもしれないが、いづれにしろ、利用者が望む生活を見極めることから始めることになり、利用者がより豊かな生活を求めるよう、私達も新たな発想を求められているのかもしれない。さて、今年の法人標語は、「日々新たに」といたしました。日々の歩みについて、私たちは神の計画のもとにあると言われています。創立者大河内一郎先生は、この計画を信じ目的を持って法人を立ち上げました。しかし立ち直ることの出来ない程の挫折を幾度も味わいました。このとき、先生は聖書にある、たとえどんな困難

に遭遇しようと、また、どうしようもない試練に直面しようとして「私は決して見放さず、あなたを見捨てない」この御言葉を信じ励まされて事業を進めました。私たちの人生には絶えず問題が起きます。自分の力ではどうすることも出来ない苦しさ、頭に抱えます。しかし、神は、あなたの人生は私の計画のうちにあり、思い悩む必要はない。日々全力を尽くして生きるべきと教えています。私たちは過去を振り返らず、そして明日があると思わないように、神から与えられた今日という日を、あたらしい日の始まりとして心に刻みつけて、この一年を過ごしたいものです。

昨年、新型コロナウイルス感染症対応に翻弄された1年でしたが、事業継続計画に基づいて職員が協力し合うことにより、利用者の生活を守ることができました。国は、感染症法上の位置付けについて、5月8日から5類感染症に位置付けることとしました。3年前には、感染症対応の「新しい生活様式」が推奨され、福祉・介護業界でも利用者・職員とも新しい生活様式に移行することに頭を悩ませましたが、これからは、元の生活に戻す努力が求められています。短期間でコロナ前の生活に戻るのか悩ましい

ところ。窮屈な生活を強いられ、利用者のためには、早く元の生活に戻してあげたいが、感染症は完全になくなるわけではありません。しばらくは、感染状況を見ながら徐々に戻すことになるでしょう。新たな支援の仕方が必要になるのかもしれないが、いづれにしろ、利用者が望む生活を見極めることになり、利用者がより豊かな生活を求めるよう、私達も新たな発想を求められているのかもしれない。さて、今年の法人標語は、「日々新たに」といたしました。日々の歩みについて、私たちは神の計画のもとにあると言われています。創立者大河内一郎先生は、この計画を信じ目的を持って法人を立ち上げました。しかし立ち直ることの出来ない程の挫折を幾度も味わいました。このとき、先生は聖書にある、たとえどんな困難

に遭遇しようと、また、どうしようもない試練に直面しようとして「私は決して見放さず、あなたを見捨てない」この御言葉を信じ励まされて事業を進めました。私たちの人生には絶えず問題が起きます。自分の力ではどうすることも出来ない苦しさ、頭に抱えます。しかし、神は、あなたの人生は私の計画のうちにあり、思い悩む必要はない。日々全力を尽くして生きるべきと教えています。私たちは過去を振り返らず、そして明日があると思わないように、神から与えられた今日という日を、あたらしい日の始まりとして心に刻みつけて、この一年を過ごしたいものです。

# 日々新たに

コリント人への手紙 第二 四章 十六節  
いわき福音協会 理事長 藁谷 健一

目次

- 1面：今年の標語
- 2・3面：いわき福音協会ニュース
- 4・5面：特集 福音協会 秋冬だより
- 6面：職員紹介
- 7面：歴史を振り返る ポポロ
- 8面：法人ニュース コラム

# いわき福音協会ニュース

## 社会福祉法人いわき福音協会の事業について

### 1. 令和4年中の施設整備について

主な施設整備等(150万円以上)

- (1) 野の花ホーム/業務用洗濯機購入
  - ・ 老朽化に伴う更新で利用者サービスの向上を図る
  - ・ 3月購入(自己資金)
- (2) 光の家/空調設備改修工事(Ⅳ期)
  - ・ 冷暖房効率を高め利用者の生活環境の向上を図る
  - ・ 5月～6月実施(自己資金)
- (3) はまぎく荘/作業棟プレハブ改修工事
  - ・ 老朽化に伴う修繕
- (4) はまぎく荘/女子棟居室改修工事
  - ・ 6月～8月実施(みはま後援会様よりご寄附)
  - ・ 老朽化に伴う修繕
- (5) はまぎく荘/男子棟居室改修工事
  - ・ 6月～9月実施(自己資金)
  - ・ 老朽化に伴う修繕
- (6) はまぎく荘/みはま体育館外壁改修工事
  - ・ 老朽化に伴う修繕
  - ・ 6月～9月実施(自己資金)
- (7) 野の花ホーム/自動火災報知設備更新
  - ・ 経年による更新
  - ・ 9月～10月工事(自己資金)
- (8) はまぎく荘/高架水槽撤去に伴う施設内給水設備改修工事
  - ・ 老朽化に伴う撤去及び修繕
  - ・ 10月～11月実施(自己資金)
- (9) カナン村/屋上防水張替工事(女子棟他)
  - ・ 老朽化に伴う修繕
  - ・ 10月～11月実施(自己資金)

### 2. 令和4年中のその他の取り組みについて

- (1) 4月1日・就労系事業所の多機能化
  - 就労移行支援事業所「つばさ」と就労継続支援B型「かがやき」を統合して、新たに多機能事業所「つばさ」として事業開始
- (2) 7月8日・職員採用活動方法検討会の立ち上げ
- (3) 7月25日・事業継続計画(BCP)の発動
- (4) 9月1日・相談支援事業の統合
  - 「相談支援事業所タラント」と、「エデンの家」相談支援事業を統合して相談支援体制の充実強化を図る
- (5) 9月16日・「ポポロ」の従たる事業所建築の取り止め
  - 社会福祉施設等施設整備補助事業の不採択を受け、次年度に同補助事業に再申請する予定であったが、利用ニーズの減少及び建築資材高騰による費用対効果が見込めないことから、建築計画を廃止する
  - (建築予定地↓「ポポロ」公用車及び職員私有車駐車場)
- (6) 9月20日・礼拝堂改修工事契約の締結(令和5年3月23日竣工)
- (7) 12月20日・みらい推進会の立ち上げ

### 3. 今年の主な取り組みについて

- (1) 福島整肢療護園の建て替えに向けて
  - ・ 法人中長期計画の一環として福島整肢療護園中長期事業計画の見直し(1月)
- (2) 法人短期・中長期計画の見直し(3月)
- (3) 礼拝堂改修工事完了後、簡易な竣工式を開催





# いわき福音協会ニュース

## 地域貢献委員会の活動について

私たち地域貢献委員会の活動も間もなく9年目を迎えるところです。

初めは、「何が地域貢献といえるだろう」「私たちに何が出来るだろう」など、迷いや不安がありました。地域貢献に関する研修や地域の皆様の声を参考にしながら、何となく、今、私たちが出来る活動のカタチが見えてきたように思えます。

私たちが取り組んでいる地域貢献活動は、家族や友人、ご近所さんとの交流がなく、日頃、孤独や孤立感を抱いている方などを対象に、雑談やゲームなどで楽しい時間を過ごすことが出来る「ふれあいサロン(月1回)の開催や、コロナ禍以降は、開催することが出来ない事業の代替えとして、平窪地区の公園のゴミ拾いや歩道の草刈り等に取り組んでいます。

そんなある日のこと、平窪の公園でゴミ拾い活動をしていたときのことです。下校中の近隣の小学生が公園沿いの通学路に落ちていた空き缶を拾い、「お兄さん、これもお願いします。ゴミ拾い頑張ってください！」と声を掛けてくれました。小学生にとっては何気ない行動だったかもしれませんが、私たちに与っては、心に響いた嬉しい一言でした。

私たちの活動は、コロナ禍もあり、制限されることが多く、地域の皆様と触れ合える機会は少なくなりましたが、いわき福音協会がこの平窪を中心とした地域で70年以上の間、福祉事業を運営出来たことは、まさに地域の皆様のご理解とご協力があったからだと思います。

私たちは、皆様とのご縁とご恩に報いるため、「地域にどんな形で恩返しをしていくか」「自分たちが働く地域をどうしていきたいかを考え、行動に繋げていきたいと思えます。これからも私たち地域貢献委員会の活動を応援して頂けたら幸いです。

ゴミ拾い中に声を掛けてくれた小学生、本当にありがとうございます！

地域貢献委員会 石本達哉



公園のゴミ拾い活動



ふれあいサロンでの皆で楽しくボードゲーム

## 研修委員会報告

法人研修委員会では、新採用職員研修会を実施しております。四月には、三日間で法人の歴史・法令遵守や接遇マナー等を研修し、五月からは、月一回法人内の職員が講師となり「介護・リスクマネジメント・感染症・利用者支援等」を一年通して研修しています。職員の職種が、介護・保育・医療と広いので研修の方向性が難しい面もありますが、すべては、法人を選んでサービスを受ける方に【安心・安全・快く】サービスを提供するために必要な過程です。

また、今年度からは中堅職員研修会を、入職十年前後の職員を対象とし、月一回を一年かけて行いました。委員会としては、何を中心として研修を進めるか悩み、一回目は「社会福祉法人育成会理事古川敬様」に、二回に渡り「意思決定支援」について研修を受けました。他には、法人内の理事・評議員からも研修を受け、改めて知る事や確認する事もあり、研修の深さを感じました。委員会として、社会福祉を取りまく環境の情勢を鑑みながら、研修を今後とも進めていきます。

研修委員会 植原明美



## 危機管理委員会より

### 「防災講話・不審者対応訓練実施」

当法人には、非常事態に遭遇した際に、利用者様の施設生活を守り、被害を最小限に抑える事を目的に、危機管理委員会が設置されています。当委員会では、年間計画に基づき、障がい児者支援センターエリコに於いて、昨年10月25日に、防災講話として、いわき市災害対策課の職員の方を迎え、いわき市出席講座「土砂災害から身を守るために」を、また去る、1月25日には、いわき中央署署員を講師に招き「不審者対応訓練」を実施しました。「防災講話」では、土砂災害の種類に、がけ崩れ、土石流、地すべりがあり、それぞれの前兆現象を察知した場合の早期避難の重要性について、各職員は改めて認識する事ができました。

「不審者対応訓練」では、不審者への「声掛け」のタイミングや、実際に「さす股」を使用した訓練を行いました。警察官が扮する不審者への対応に、緊張した雰囲気の中、各事業所の職員は、真剣な面持ちで訓練に参加していました。私達職員が、日常生活の中で常に危機管理意識を持つ事、また非常時の的確な対応を取る事の難しさを実感しながらも、利用者様への安心・安全な生活の提供に取り組みさせていただきます。

危機管理委員会 佐々木哲也





### 野の花ホーム

12月の行事としてツリーの前で写真撮影を行いました。



### 光の家

今年も楽しくクリスマスをお祝うことができました。みなさんに感謝します。



### エテンの家

新年に「私の夢」の書き初めを行ったり、足湯でぽかぽか温まりました。



### つばさ (B型)

つばさB型では、10月31日に新米収穫時恒例の収穫祭、12月22日に忘年会(ボウリング大会)が実施されました。収穫祭は農耕班で採れた新米・野菜を使ったカレーライスや焼き芋を食し、忘年会は貸し切りの会場でボウリングを楽しみました。



### つばさ (移行)

つばさ(移行)恒例の仕事始めに行う初詣と書き初めをしました。今年の目標を筆で書き、皆さん素晴らしい発表が出来ました。



### シーズ

あたたかい部屋でゆっくり。憩いのひとときです。



# 冬だより

が多いですが、少しずつイベントがきました！法人の事業所でもい過ごしています。





### 小島保育園

- ▶クリスマスの歌がきこえてくるよ。
- ▼いちごサンタクロースを踊りましょう



### カナン村

令和4年12月14日カナン村ではクリスマス忘年会が開催されました。



### ポポロ

- ◀1名の成人式(20歳の祝い)をおこないました。おめでとうございます!
- ▼芋ほりを行いました。大きな芋が取れました。



### はまぎく荘

秋祭りで、みんなで「いわき踊り」を踊って楽しみました。



### 福音協会

# 秋

今だ世の中はコロナの話題なども戻ってきて、賑わっている。いろいろな工夫を凝らしながら

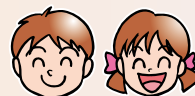
### はまなす荘

11月10日に旅行代替行事を行いました。スタンプラリーや釣りゲームで皆さん楽しい時間を過ごされました。



### 福島整肢療護園

療護園で一番のイベント「ふれあいたのしい会！」コロナに気を付けながら楽しみました。





# 職員紹介

当法人では450人を超える職員が勤務しています。今回は新入職員の中から、2名を紹介します。

エデンの家 保育士  
**一ノ倉愛梨** (いちのくら あいり)  
(勤続1年目)



○福祉の仕事を選んだ理由  
学生時代から、福祉関係の仕事に興味を持ってお

段の業務内容について  
いわき短期大学幼児教育科を卒業し、エデンの家で保育士として勤務しています。私は児童発達支援センター、放課後等デイサービスをご利用されている、主に重度心身障がいのお子様たちへの療育支援を行っています。

○自己紹介と普段の業務内容について  
みなさん、初めまして。はまぎく荘で支援員をしています。支援員の経験は今年で3年目になります。私の勤めているはまぎく荘は、主に知的障がいのある方が入所し、生活介護・施設入所支援・短期入所・日中一時支援の事業を行っています。私は生活支援員として利用者様の整容・食事・入浴・排泄介助等と日常生活全般の支援を行っています。

○福祉の仕事を選んだ理由

私は障がい者施設実習を通しての経験から、福祉の仕事を選びました。保育を専攻していたので、大人の障がいのある方との関わりは初めてでした。始めは緊張しましたが、とてもみなさん心暖かく、笑顔で楽しい会話をしたり一緒に日中活動を行ったりしました。短期間の関わりの中からですが、障がいのある方との関わりは一日一秒が貴重であり、自分の持ち味を生かして利用者様が一日を楽しく過ごして欲しいなという思いが浮かびました。支援において難しいと感じる事もありますが、やりがいを感じ仕事と向き合っています。

○就職活動中の皆さんへ一言  
福祉の仕事は、「人の役に立つ」仕事と思っっています。誰かの力になれる。り、ボラ  
ンティア活動に参加するようになりました。そこで、利用者様の生き生きとした表情を生み出すことが出来る仕事に魅了されました。しかし、実際に利用者様と関わると知識や経験の不足を身に染みて感じました。私の拙い支援に対して笑顔を見せてくれたり、身振り手振り等の仕草で答えてくれる利用者様は、私にとって嬉しいものでした。特性を正しく理解し、利用者様一人ひとりに合った関わり方や支援をすることの難しさを学び、それが上手くいった時の達成感はやりがいへと繋がっていききました。次第に障がいを区別せず、様々な人と関わりたいと思うようになりました。現在私が勤務しているエデンの家では、未満児から成人の方、様々な障がいをお持ち

私は障がい者施設実習を通しての経験から、福祉の仕事を選びました。保育を専攻していたので、大人の障がいのある方との関わりは初めてでした。始めは緊張しましたが、とてもみなさん心暖かく、笑顔で楽しい会話をしたり一緒に日中活動を行ったりしました。短期間の関わりの中からですが、障がいのある方との関わりは一日一秒が貴重であり、自分の持ち味を生かして利用者様が一日を楽しく過ごして欲しいなという思いが浮かびました。支援において難しいと感じる事もありますが、やりがいを感じ仕事と向き合っています。

はまぎく荘 支援員  
**東城 亮介** (とうじょう りょうすけ)  
(勤続3年目)



社会貢献や自己実現につながる仕事です。もし興味があれば各事業所に見学へ！就職活動は人生第一歩の決断であると思います。自分に合い・やりがいを感じ・目標に対してもっと頑張りたいと思えるような職場を見つけてください。進んだ道の先に素敵な出会いがあると思います。急がず焦らず頑張ってください。

○就職活動中の皆さんへ一言  
色々な事業所を見て、自分のやりたいことに一番近い職場を探すことが大切だと思います。自分を信じて頑張ってください。





生活介護事業所ポポロ全景

**シリーズ**

『歴史を振り返る』

**生活介護事業所**

**ポポロ**

10

生活介護事業所ポポロは、平成23年1月4日に定員20名の生活介護事業所として、開所しました。当時は、入所施設から地域生活へ移行する利用者が増えている中、生活の場であるグループホームと共に日中活動の場を整える必要があり、当法人としてもできるだけ地域に密着した事業の展開をしたいという思いから、平塚の街中にある現在地に施設を設置しました。「ポポロ」とはイタリア語で「市民」という意味です。障がいを持つている方が利用し

ながらも、地域の方が気軽に立ち寄れる場所、利用者の方や事業所が地域に溶け込んでいければという願いがこめられ名づけられました。事業開始の際には、グループホームバックアップ事業所「ふくいん」のサブセンター（現：共同生活援助事業所シリーズ）の事務所との併設により、「障がい者福祉センターポポロ」としてスタートしました。運営を開始して12年、事業所としては短い期間にも、たくさんの出来事がありました。

事業を開始して3か月目の平成23年3月には東日本大震災に見舞われ、建物や人への直接の被害はほとんどありませんでしたが、帰宅できないグループホーム利用者の一時避難場所となり、続く原発事故や地域の浄水場の被災による断水の影響もあり営業休止を余儀なくされ、4月1日再スタートすることになりました。平成24年の夏には、相双地区からいわきに避難した児童の行き場所の確保を、と福島県相談支援充実・強化事業からの依頼で、日中一時支援事業による子供たちの受け入れを行いました。この事業は、現在も長期休みや放課後の預かり（日中一時）に繋がっています。

また、令和元年の台風19号では、床上120センチの浸水被害に見舞われ、建物も復旧に半年を要しました。復旧までの間は、法人内カナン村の作業場に間借りし、仮場所で営業を継

**ポポロ**

あの時この時

**催事スナップ**

続。令和2年4月には建物復旧も完了し、併設事務所サブセンターが現営業所アシエルに統合、建物は一体化し、名称を「生活介護事業所ポポロ」とし運営を再開しました。現在定員を35名にし、地域から求められる日中活動の場として事業を展開しております。

多くの皆様のご支援や地域の皆様のご理解と協力により、事業を継続することができています。これからも地域との関りを大切にしながら、利用者様一人ひとりの思いを受け止め、その人らしい人生を送れるよう支援していきたいと思っております。

所長 金野 小百合



